

ほーほーどり

我孫子野鳥を守る会

No. 250

2016年

5～6月号

行 事 案 内

Enjoy 手賀沼！

第27回バードウィーク手賀沼探鳥会 (5月手賀沼探鳥会)

バードウィーク(5/10~5/16)に合わせて実施されるイベント Enjoy 手賀沼!の一環として探鳥会を行います。我孫子市鳥の博物館と当会が共催し、山階鳥類研究所が後援します。探鳥会には50名前後の市民の参加が見込まれ、見られた鳥の説明をします。

会員多数のお手伝いをお願い致します。

期 日 5月8日(日)
集 合 手賀沼親水広場 午前8時30分
担 当 全幹事(事務局:桑森亮、野口隆也)
案 内 今回は手賀沼遊歩道を歩く

1時間コース(9:15~10:30)と
2時間コース(9:15~11:30)に分け、どちらかを選んで頂きます。
探鳥後、鳥合わせは班ごとに鳥の博物館で行います。

*5月の定例探鳥会は、このバードウィーク手賀沼探鳥会に代えます。

*雨天の場合は鳥の博物館見学会(入場無料)を実施します。
受付9:30から、見学会10:00~11:00

*雨天の判断は7時30分以降
「鳥博」 04-7185-2212 まで。

6月手賀沼探鳥会

期 日 6月12日(日) 雨天中止
集 合 我孫子市役所 午前9時
案 内 夏鳥が見られる季節です。田圃でチュウサギ、アマサギ、葦原でオオヨシキリが見られることを期待しましょう。また、子育ての時期でもあります。コブハクチョウ、オオバン、カイツブリなどの親子連れのかわいい姿が見られるでしょう。さらに、猛禽類では、サシバが見られるでしょう。
解 散 正午
担 当 船津

5月、6月手賀沼定点カウント

期 日 5月7日(土) 雨天延期
6月4日(土) 雨天延期
集 合 我孫子市役所 午前9時
解 散 正午予定
担 当 金子雅幸、船津登、桑森亮
連絡先 桑森亮
Tel: 04-7182-3149

5月、6月ピオトープ調査

期 日 5月5日(木) 雨天延期
6月2日(木) 雨天延期
集 合 手賀沼ピオトープ 午前9時30分
案 内 5月は冬鳥が去り、夏鳥オオヨシキリ、ホオジロが囀り、キジも鳴き、ツバメも飛ぶようになります。ツツジ等の木の花、アカツメクサ、カラスノエンドウ、ハルジオン等の野草の花が多く咲き、蝶、バッタ、蜂、蛙等が見られるようになります。6月にはトンボも観察できます。春、初夏の手賀沼ピオトープ周辺を花、昆虫等に囲まれて探鳥をしてみましょ。昨年5月は17種、6月は13種の野鳥を観察しました。参加希望の方は下記までご連絡下さい。

解 散 午前11時30分
担 当 鈴木静治
Tel : 080-3121-4757

初夏のシギチ探鳥会

期 日 5月15日(日) 雨天中止
集 合 我孫子駅北口 午前8時
案 内 昨年はシギチの飛来が極端に少なかった為中止せざるを得ませんでした。今年は時期を遅らせ探鳥範囲も与田浦辺りまで広げて実施致します。この時期はやはり、真っ黒に換羽した夏羽のツルシギを是非見たいものです。他にオオハシシギ、ムナゲロ、キョウジョシギなどなど美しい夏羽のシギチと一緒に楽しみましょ！夏羽に換羽中のエリマキシギにも期待です。

交 通 自家用車分乗です。同乗者は一人1500円を運転者にお渡し下さい。自家用車を提供可能な方は、申込み時にその旨を連絡願います。

持 物 観察用具、雨具、昼食(途中購入可)
申 込 金子雅幸まで
Tel : 04-7133-6944
担 当 松本、金子(雅)

松之山探鳥会

期 日 5月29日(日)、30日(月)
集 合 我孫子駅北口 ふれあい広場前
午前7時30分
交 通 小型バス(進和観光)
宿 舎 松之山温泉 野本旅館
Tel : 025-596-2013
参加費 24,000円程度(交通費、宿泊費等)
定 員 20名(申込み受付順)
案 内 当会としては二度目となる松之山温泉(新潟県十日町市)周辺の探鳥会です。松之山温泉は開湯約700年の歴史を有し、美肌効果と薬湯効果で知られていますが、周辺の里山は探鳥地としても有名です。全国でも観察地が少なくなっているブッポウソウとチゴモズがかなりの確度で見られ、末尾記載の2014年探鳥会実績では代表的な夏鳥が相当な種類見られており、バーダー憧れのアカショウビンも期待できます。昨年のプライベート探鳥ではキバシリも観察できました。宿舎では自慢の温泉と料理も楽しめます。多くの皆さんの参加申込みをお待ちします。2014年の同探鳥会で観察された鳥：ホトトギス、カッコウ、アマツバメ、ハチクマ、サシバ、アカショウビン、ブッポウソウ、オオアカゲラ、サンショウクイ、サンコウチョウ、チゴモズ、クロツグミ、キビタキ、ノジコなど40種。

持 物 観察用具、雨具、常備薬等
申 込 桑森亮まで(旅行傷害保険に入るため満年齢をご連絡下さい。)
Tel/Fax : 04-7182-3149
担 当 金子(雅)、桑森

第18回「野鳥サロン」のご案内

乗鞍・上高地 探鳥会

期 日 7月3日(日)、4日(月) 雨天決行
集 合 我孫子駅北口 ふれあい広場前
午前7時
案 内 鳥だけではなく絶景も楽しもうと
いう企画です。乗鞍では標高2700
mの置平周辺で、山々をバックに可
愛らしい子連れのライチョウやイ
ワヒバリ、カヤクグリ、ホシガラス
を観察。上高地では梓川沿いの笹藪
で鳴くコマドリと、オオルリ、ウゲ
イスの3大鳴鳥を1カ所で見られ
る可能性がある他、オオアカゲラ、
イカルチドリ、オシドリなども期待
出来ます。美しい景色共々お楽しみ
下さい。
交 通 小型バス(進和観光)
定 員 20名(申込み受付順です)
宿 舎 滝見館 長野県南安曇郡安曇村
4306
Tel: 0263-93-2412
費 用 24,000円程度
持 物 観察用具、雨具、防寒具、昼食、飲
み物
申 込 金子雅幸まで(旅行傷害保険に入
る為、生年月日をご連絡下さい)
Tel: 04-7133-6944
担 当 小澤、金子(雅)
*予約都合により先行掲載致します。

第18回野鳥サロンを下記の日程にて開催
いたします。

*台湾探鳥会の魅力

主な訪れた探鳥地の紹介

魅力的な鳥たちのビデオ放映

日 時 5月23日(月) 9:30~11:30

場 所 水の館3階研修室

会 費 一人300円(茶菓代)

申 込 古出洋子まで

Tel: 0476-42-3188

申込期限 5月20日

担 当 間野、佐々木、古出

5月役員会案内

日 時 5月8日(日) 13:00~16:00

場 所 水の館 3F 研修室

議 題

平成28年度下期行事計画につ
いて

平成28年度役員の仕事別分担
について

会報251号掲載予定記事につ
いて

第19回野鳥サロンについて
報告事項

・対外対応状況 他

その他(議題のある場合は桑森
までご連絡下さい。)

行 事 報 告

2月手賀沼探鳥会

日 時 2016.2.14 9:00~
荒天のため中止
当日は急速に発達している低気圧と前線

通過に伴う強風が襲いました。

関東地方に春一番で竜巻注意報まで出る
荒天のため、中止になりました。

それでも、6名の方が市役所前に集合して
くれました。(担当)松本勝英

2月手賀沼定点カウント

調査日時 2016.2.11 9:00~13:00

晴れ 微風 11

前日の強風も止み、穏やかな天気で多くの鳥が見られるか・・・の期待に反し、12月よりも少ない鳥数だった。しかもカモ類に至っては11月よりも少ないという信じれない様な結果に終わった。暖冬の今年は小鳥類も少ないが水鳥も寂しい限り。手賀沼だけの現象でなければ良いが？

調査種	上沼	下沼	合計
コブハクチョウ	11	23	34
オハクチョウ	0	4	4
オカヨシガモ	25	0	25
ヒドリガモ	0	25	25
マガモ	0	84	84
カガモ	39	15	54
オカガモ	0	1	1
コガモ	76	22	98
ホシハジロ	1	0	1
スズガモ	1	0	1
ミコアイサ	5	6	11
カイツブリ	13	9	22
カンムリカイツブリ	15	30	45
ハジロカイツブリ	2	0	2
カワウ	14	37	51
アオサギ	8	4	12
ダイサギ	0	2	2
コサギ	0	8	8
バン	2	0	2
オオバン	17	86	103
ユリカモメ	7	101	108
セグロカモメ	1	1	2
合計	237	458	695

<調査者> 田中功、桑森亮、金子雅幸、船津登 計4名

2月手賀沼ピオトープ調査

調査日時 2016.2.4 9:30~11:05

晴れ 無風 8~13

沼には鳥の姿があまり見えない。沼岸近くを泳ぐカイツブリ、オオバン、カルガモ、カンムリカイツブリ、ホシハジロ、コブハクチョウが、沼岸の葦の茎をかむオオジュリン、葦の穂を採食するホオジロ等が観察できた。ピオトープの葦原ではアオジも見られ、池ではカルガモ、コガモ、ミコアイサ、オオバン、バンまた餌を探すダイサギ、コサギも見られた。林の木の実食べ尽くされているがヒヨドリ、モズが飛ぶ。なお草の実食べつくされたアワダチソウ、ヨシ、ヒメガマ等の穂が残る程度である。柳、桜の芽は小さい。上空をトビが飛ぶ。ピオトープの取水口は休止していた。田は一部改良工事中で、二番穂の田も残る。田にはツグミ、ハシボソガラスが餌を探す程度で少ない。それでも観察した鳥の種類は多く、28種135羽。他にカマキリの卵、モグラの盛り土、木の芽4種、木の実3種、野草の花2種、野草の実3種も観察出来ました。

<認めた鳥> コブハクチョウ、カルガモ、コガモ、ホシハジロ、ミコアイサ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、バン、オオバン、ユリカモメ、トビ、カワセミ、モズ、ハシボソガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ツグミ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ、アオジ、オオジュリン 計28種137羽
<調査者> 鈴木静治、船津登、間野吉幸、金子雅幸 計4名

3月手賀沼探鳥会

日時 2016.3.13 9:00~12:10

曇り 微風 8

当日集合した時は曇りで、雨の心配もしましたが、何とか天気もち、観察を終えることができました。かえって曇り空くらいのほうが鳥にとって活発に動けるのでしょうか。この時期は寒くても冬とは違う気温を感じてか冬鳥がだいぶ少ない時期ですがカモ類ではマガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、コガモ、ホシハジロを観察することができました。遊歩道からヒドリ橋ではベニマシコ、オオジュリン、上空にはミサゴの旋回またウグ

イスの声やツバメを見ることが出来ました。また今回はカモメの幼鳥の情報があり曙橋まで足を延ばしましたが、この日は残念ながらカモメの幼鳥を見ることはできませんでした。

<認めた鳥> キジ、コブハクチョウ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、オナガガモ、コガモ、ホシハジロ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、クイナ、バン、オオバン、ユリカモメ、セグロカモメ、ミサゴ、トビ、ノスリ、カワセミ、チョウゲンボウ、ハヤブサ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、ムクドリ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ベニマシコ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、オオジュリン 計 47 種
番外 カワラバト

<参加者> 宮下三禮、村瀬和則、野口隆也、村松寿夫、渡辺公子、金子幸子、榎本右、西城猛、桑森亮、森本宜久、佐藤貴子、北崎正典、常盤孝義、間野吉幸、野倉元雄、船津登、岩田マキエ、小澤淳宏、佐藤弘美、小川克子、徳重玲子、二國豊広、松田幸保、北原建郎、石渡成紀、小林博之、横尾佳代子、金子雅幸、千葉洋、古出洋子、石井俊子、木村稔、渡辺俊文、鈴木静治
(担当) 野口紀子、小林寿美子 計 36 名

3月手賀沼 定点カウント

調査日時 2016.3.5 9:00 ~ 12:30
晴 微風 14

暖かい冬で早くも北帰行が始まったのか、手賀沼公園のオナガガモ、ユリカモメが激減した。手賀沼の水面もカワウ、オオバンが増えた以外はカモ類は減少し、寂しい限り。手賀沼の水位が上がり、ハスが水没に近い状態だったが、そんな中にマガモのペアが多く見られ、またオオハクチョウも見られた。アオサギなども婚姻色が出始めた。

調査種	上沼	下沼	合計
コブハクチョウ	20	21	41
オオハクチョウ	0	5	5

オカヨシガモ	39	0	39
マガモ	2	55	57
カルガモ	24	8	32
コガモ	36	38	74
ホシハジロ	0	12	12
キンクロハジロ	0	1	1
ミオアイ	8	0	8
カイツブリ	16	6	22
カンムリカイツブリ	14	13	27
ハジロカイツブリ	2	0	2
カワウ	17	94	111
アオサギ	3	4	7
ダイサギ	0	5	5
コサギ	1	3	4
バン	3	0	3
オオバン	44	85	129
タシギ	0	1	1
ユリカモメ	0	55	55
セグロカモメ	1	4	5
合計	230	410	640

<調査者> 田中功、桑森亮、船津登、金子雅幸 計 4 名

3月手賀沼ピオトープ調査

調査日時 2016.3.3 9:30 ~ 11:30
快晴 弱 ~ 無風 11 ~ 18

観察し始めは少し空気が冷たかったが、徐々に気温が上がり暑い位になる。ピオトープでは枯れた叢、葦にアオジ、オオジュリン、ツグミ、ホオジロ、スズメ、モズ、ウグイス、ムクドリ、キジ等が観察出来た。観察ゾーンに近い生息ゾーンの池が掘削され広げられたせいか池では多くの種類の水鳥、アオサギ、コサギ、オオバン、バン、カイツブリ、コガモ、コブハクチョウ等が見られた。沼側でも同じようであったが、他にカワウ、カンムリカイツブリ、ジョウビタキ、ユリカモメ、ホシハジロ等がみられた。沼でトビが魚を掴む様子を見てみると、いつの間にかトビが 4 羽になり、田の上で群舞した。観察した野鳥 28 種 195 羽。他に木の花芽 2 種、実 2 種、野草の花 3 種、穂実 4 種、蝶 1 種、モグラ

の盛土等も観察出来ました。

<認めた鳥> キジ、コブハクチョウ、カルガモ、コガモ、ホシハジロ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、クイナ、バン、オオバン、ユリカモメ、トビ、モズ、ハシボソガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、ムクドリ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、ホオジロ、アオジ、オオジュリン 計28種 195羽。

<調査者> 鈴木静治、間野吉幸、船津登、金子雅幸 計4名

井頭公園探鳥会

2月6日

~井頭公園はおもしろい~

弘實和昭

数年前に「イノカシラ公園で探鳥するのは面白いよ。」と女房が言っていたのを覚えています。その時は、あんな街中の公園で野鳥を見るのが面白いのかねえと思っていました。吉祥寺に住む友人がフェイスブックで公園の池にいるカモやサギの写真をよく送って来るのですが、その友人に会うたび「鳥を見るならそりゃー手賀沼の方が抜群に面白いよ」とよく言っていたものです。実は、申し込みの直前まで井の頭公園と思っていたのです。吉祥寺まで行くのだと・・・

井頭とは井戸の頭、水源のことです。井の頭公園の池は、江戸の水道である神田上水の源です。この井頭公園も、湿地の湧き水を利用して溜池にしていたものです。それを近年ポート池に作り変え公園にしました。池の周りはコナラやクヌギといった雑木林が囲んで、『日本の都市公園100選』にも選定されています。自然豊かな栃木県真岡市の都市公園のことだったのですね。

さて、真岡の地名の由来もおもしろい。この町の周辺の土地は沼や沢で覆われていて水鳥たちの生息地になっていた。その台地にそびえる松などの木々に鶴が飛来し、その舞い飛ぶ様子があまりにも美しいので、人々はいつからか「ツルの舞う丘」「舞丘(まいおか)」と呼ぶようになった。そして舞丘が「もうか」といわれるようになり、「真岡」と書かれるようになったと言われています。水鳥が多い

のもうなずけます。

井頭の池では、冬になるとカモなどの水鳥を一日で2000羽近く観察できます。11月15日~2月15日、鳥獣が最も美味しくなるといわれるこの3か月間に狩猟が解禁されますが、この狩猟期間になるとポート池のポート貸は行われません。水鳥が住みやすいようにとの配慮からです。狩猟地区からの避難場所として、この池で鳥たちを守ってゆこうと考えているのです。

この水鳥が群がる光景を見て「カモ、美味しそうですね。」などと言ったら野鳥を守る会の皆さんから大ひんしゅくを受けること間違いなしですね。実は、私は子供のころ捕って貰ったカモを食べたことがあります。味は全く覚えていませんが、羽根は外して大人になるまで机の上を掃く刷毛として使っていました。

日本は平地が狭く牧畜に適する草原がないため、家畜を育てて食用とすることを放棄した珍しい国で、肉をあまり食べませんでした。しかし戦後しばらくまでは、野生の鹿やイノシシ、特に鶴やカモなどはよく捕って食べていたのです。それを生業としている猟師の人もいました。故郷という歌「ウサギ追いかの山、小鮎釣りの川・・・」きつと、食べるためにウサギを追いかけ、鮎を釣っていたのです。当時はカモたちも人に食べられて、えらい災難だったのです。

今や野鳥は、鳴き声やその飛ぶ姿を見せてくれば、私たちを喜ばせてくれる小さな友人となっています。ポート池の周りを歩いていると、カモたちの狂騒が楽しくも聞こえてくる。そして、カワセミが都合4回も登場してくれ、身近で魚の捕獲シーンも見せてくれたのです。

カワセミはくちばしが長くて頭が大きく、背中の中とオナカのオレンジが絶妙の補色対比で美しさを際立たせている。最もこの青色は色素によるものではなく、シャボン玉がさまざまな色に見えるのと同じ原理で光の加減で青く見えるのだという。「溪流の宝石」と呼ばれているこの鳥のことを、中国では元々「翡翠(ヒスイ)」と言っていた。ところが、玉と呼ばれる青い宝石が「翡翠」の名を取ってしまったのだそうだが、こんな話を聞いているだけで楽しい気分になりますね。枝に止

まりじっと水面を見ていたかと思うと、瞬間ザブンと飛び込み、魚を啜って同じ枝の同じ位置に戻って来た。

見慣れない鳥としては、トラツグミ、3羽並んだベニマシコ、シロハラ、ピンズイ、シメ、落ち葉を掻きわけ葉に隠れた餌を取ろうとする数十羽のアトリの群れ、手賀沼ではあまり見ることがない鳥たちに本当に感謝。

手賀沼の冬は、一日歩き回ると水鳥が2500羽近く、水鳥以外は1000羽ほど、30から40種類の鳥が観察できます。今回の井頭では、参加した会員31名で確認できた数が47種。井頭公園は手賀沼に比べればとても小さい池ですが、沢山の水鳥がいて、鳥と人の交わりを配慮した手入れの行き届いた雑木林があり、良い公園ですね。楽しめます。

【幹事報告】

毎年のことながら、当日の天候を気遣う探鳥会ですが、今年も幸運に恵まれ、定刻8時ちょっと過ぎ、我孫子駅北口を出発、一路目的地へ。(途中、道の駅二宮でトイレ休憩と弁当購入)予定の10時半どんびしゃり公園駐車場に到着。往路のバス中での「わたしは誰でしょう?」の鳥当てクイズに続いて、探鳥には、恒例の「バードソン」で真剣勝負が始まった。結果は1種差でB班が勝利。

ここ3年間の記録では、延60種になっており、新種が出るか期待したが、やはり、その枠は越せなかった。ウソは今年もダメだった。ミヤマホオジロは時間切れ、トモエガモはA班だけ、しかしアトリの一群、トラツグミの大サービスで、初参加の方々も満足(車中での感想)頂けた探鳥会でした。

<認めた鳥> ヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、オナガガモ、トモエガモ、コガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、コサギ、オオバン、トビ、カワセミ、コゲラ、チョウゲンボウ、モズ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、キクイタダキ、コガラ、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、ムクドリ、トラツグミ、シロハラ、ツグミ、ルリビタキ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ピンズイ、アトリ、カワラヒワ、マヒワ、ベニマシコ、シメ、ホオジロ、アオジ 計47種 番外 シナガチョウ

<参加者> 船津登、小山雄司、小山和子、神

部充、相良直己、津村勝吉、大久保陸夫、間野吉幸、佐藤貴子、佐藤啓子、渡邊公子、桑森亮、金子幸子、川越久枝、染谷迪夫、小川克子、弘實和昭、弘實さと子、小林博之、類地佑子、玉井修一郎、井上正、金子雅幸、吉田隆行、和田朋之、徳重玲子、野口紀子 (幹事) 小林寿美子、松本勝英 計29名 (現地集合) 阿保進、阿保国子 合計31名

涸沼・大洗探鳥会

2月13日

ポカポカ陽気と多数の鳥達に恵まれた真冬の探鳥会

上杉 宣一

探鳥会の数日前から週末は大荒れの天気になるという予報で、果たして予定通り実施されるのか不安な状況が続いていました。

一方、幹事の方からの下見報告では、涸沼のオオワシを始め、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリの群泳やホオジロガモが見られ、続いて訪れる那珂湊漁港のウミスズメや平磯海岸のシノリガモ、ウミアイサ、イソヒヨドリと言った盛り沢山の鳥達と出会えたとの事で、此処まででも今回の探鳥会はかなり期待出来そうだと思います。

更に、当初予定に加え少し足を伸ばし、最近話題になっている、ひたちなか市のケアシノスリとも出会えたとの報告を頂き、期待は更に高まるばかりでした。

当日まで天候に関しては不安を抱いておりましたが、天気予報は少し改善方向となり、風が強くなりそうでしたが曇りで何とか天気は持ちそうというので、探鳥会が中止にはなる事は無いだろうと思えるようになりました。

我孫子を出発した時点では雲が多いように思いましたが、最初の目的地である涸沼に到着した頃には多少霽が掛かっていたものの、青空が広がり、昼前には霽もすっかり晴れて見通しも良くなりました。

結果は幹事や参加された方々の日頃の行いが良かったのだと思いますが、この時期には考えられない、歩くと汗ばむほどのポカポカ陽気となり、強風が吹く事もなく絶好の探鳥日和となり、大変楽しい一日を過ごす事が

出来ました。

最初の目的地である涸沼では 2 ヶ所に立ち寄り、観察をした後で昼食をとりましたが、残念ながら狙いのオオワシを見る事は出来ませんでした。しかしながら、追い込み漁をしていると思われるカムリカイツブリとハジロカイツブリの群泳や、例年に比べ数は少ないと思われませんが、多種のカモ類等を観察する事が出来ました。広場の松には今年も多く見られているキクイタダキが、忙しく飛び回って採餌しているのを観察する事も出来ました。

昼食後涸沼を後にして、那珂湊漁港へ向かいました。此处ではウミスズメが見られるとの事で探してみましたが暫く見つからず、諦めかかった時に「いたよ！」という声が聞こえ対岸近くにいるウミスズメを見る事が出来ました。土曜日という事もあって、釣り人が多くいてあまり近くに浮上することはありませんでしたが、潜水能力が高く、直ぐに潜ってしまいかなり離れた場所に突然現れる事が多く、写真撮影はままならないようでしたが、諦めて引き揚げようとした直前に、何とか出会えたのは幸運であったと言えるでしょう。

続いて訪れたのは平磯海岸で波はやや高めでしたが、期待していた綺麗なウミアイサやシノリガモのペアが複数組見られ、更にイソヒヨドリやカモメ類も多く見られ、空と海の青と波しぶきの対比の美しい海岸の景色の中で、綺麗な鳥達との出会いを堪能する事が出来ました。

その後、磯崎の漁港に立ち寄り、本日の最終目的地である、ひたち海浜公園近くのケアシノスリの観察ポイントへ向かいました。ジョイフル本田の駐車場に車を止め、徒歩 10 分程でポイントへ着くと、先頭で到着した方が両手で大きな丸を作って合図を送ってくれました。ゴルフの OB という合図ではなく、ケアシノスリを見つけたという合図で、その方がスコープで捉えていた美しいケアシノスリの姿を見せて頂き、更に近い場所へ移動して行きました。距離的にはそれ程近くにまで寄って行ったとは思っていませんでしたが、ケアシノスリは不穏な空気を感じたのか、飛び出してあまり高くは舞い上がらず、私たちがいる歩道の反対側の林の中の木に止ま

りました。距離的にかなり遠い場所に止まっているので、飛んで上空を旋回して白い美しい姿を見せて欲しいと思いましたが、同じ木に留まり動きが見られない内に時間切れとなり、後ろ髪を引かれる思いで引き上げる事になりました。

帰路のパーキングエリアで行われた鳥合わせでは、何と 65 種類の鳥が確認され、一部の方から過去最高ではないかとの声も聞かれました。私自身は全てを視認出来た訳ではありませんが、参加人数が 26 人と多く目が沢山あり、6 ヶ所と多くの場所を巡り、多彩な鳥を見る機会があるコースが選択されていたお蔭と言えるでしょう。

長く鳥見をされている方に聞いた格言でウン・コン・カンと言うのがありますが、運が良いか、根気があるか、勘が働くかが探鳥には大事だそうで、写真を撮る人はプラス腕前が重要だそうです。

一番大事なのは運かもしれませんが、十分な下調べと車 7 台を 2 グループに分け、コンビニの混雑を避けるために、グループ毎に違うコンビニに寄る等の細かく行き届いたご配慮と、200Km を遥かに超える長距離を運転されたドライバーの方々のお蔭で、数多くの鳥達と出会い、快適で楽しい一日を過ごす事が出来たものと感謝いたします。

【幹事報告】

時期を変え海鳥の探鳥を加えた企画に、27 名の申し込みを頂いた。本番ではケアシノスリ観察も加味した為、観察ポイントが増え若干忙しい探鳥会となってしまった。涸沼では期待のオオワシが見られず、水鳥も種類はともかく驚くほど少なく寂しい限りだったが、キクイタダキの出現で救われた。那珂湊・平磯海岸では間近にウミスズメ、ウミアイサ、シノリガモ、イソヒヨドリなどが見られ、この時期海鳥観察する事の楽しさを実感出来た。最後のポイントでも、ケアシノスリの美しい飛翔する姿を全員が見られ、探鳥会を締めると呉れた。

今後も涸沼単独ではなく、海鳥探鳥も含めた方がより多くの鳥を楽しめ、会の企画としては良い様に私は感じた。

< 認めた鳥 > キジ、ヒドリガモ、ヨシガモ、オカヨシガモ、コガモ、マガモ、カルガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キ

シロカモメ、スズガモ、シノリガモ、ホオジロガモ、ミコアイサ、ウミアイサ、カイツブリ、ミミカイツブリ、ハジロカイツブリ、カンムリカイツブリ、キジバト、カワウ、ウミウ、ヒメウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、オオバン、タゲリ、イソシギ、ウミネコ、カモメ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、ユリカモメ、ニシセグロカモメ、ウミスズメ、ミサゴ、トビ、ケアシノスリ、コゲラ、チョウゲンボウ、モズ、ハシブトガラス、ハシブソガラス、キクイタダキ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、ムクドリ、シロハラ、アカハラ、ツグミ、ジョウビタキ、イソヒヨドリ、スズメ、ハクセキレイ、ビンズイ、カワラヒワ、シメ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ 計 65 種

<参加者> 浅野利幸、井上正、上杉宣一、大久保陸夫、小澤淳宏、北原建郎、桑森亮、古出洋子、古賀嗣朗、小林秀美、相良直己、佐藤貴子、佐藤啓子、アンドリュー・マクノートン、田中功、津村勝吉、仲澤成二、中西榮子、中根忠、間野吉幸、村井みとい、吉田隆行、渡邊俊文、和田朋之

(幹事) 船津登、金子雅幸 計 26 名

銚子・波崎 カモメ探鳥会

3月6日

カナダカモメ、シロカモメを確認！

津村勝吉

当会の銚子・波崎カモメ探鳥会に初めての参加です。出発前に担当幹事の桑森さんから探鳥ポイント、カモメ識別など詳しい資料をいただき自家用車に分乗し銚子漁港へ向う。空模様は曇天、途中ポツポツときて天気が気掛かりだったが銚子に着く頃には明るくなり大丈夫そうだ。

銚子漁港に 10 時 30 分頃到着、さあカモメ探鳥スタート、どんなカモメ・海鳥に出会えるか楽しみです。早速「川口漁協」周辺から探鳥開始。漁港対岸の防波堤にカモメが混群で並んでいる。ずらりと並んだ大群を期待していたが、今日は漁港が休んで漁船の水揚げが無いのでこの程度でしよとの事でした。早速この混群の中の特定

カモメ 1 羽の識別を試みる。資料を基に特徴を検証するも対象個体がちっとも落ち着かないので識別に難渋する。そうこうするうちスコープにカナダカモメを Get したと幹事方から連絡が入った。早速スコープを覗かせてもらいカナダカモメの特徴を確認し、前方防波堤に佇むカナダカモメの写真を撮る。カモメの識別は特徴検証が面倒なので苦手だ。探鳥会ではスコープ持参の幹事方が Get した個体を中心に特徴を教えて頂き識別した。千人塚前の岩礁では、沖合でシノリガモ、ウミスズメ、シロカモメなどを確認したが遠く識別しにくいのでスコープ画像を見せて頂き説明を受けた。

お昼時間となりウォツセ 21 で昼食を済ませ次の探鳥ポイント銚子第 3 漁港周辺に向かう。道路脇のテトラポッドに佇むカモメの中に一際大きいカモメの姿、特徴からシロカモメの成鳥のようだ。至近距離で見られ飛翔写真も撮れて嬉しかった。港湾の前方にウミスズメの集団を確認、追い込み漁でしょうか、隊列を組んで潜水を何度も繰り返していた。暫くすると目前にウミスズメ、カンムリカイツブリが現れたので慌てて写真を撮った。

銚子漁港周辺の探鳥を終え波崎探鳥ポイントへ向かう。海岸沿いの道路の防波堤に佇むカモメ混群、はさきカモメ公園堤付近の海鳥、波崎新港でハジロカイツブリの集団等それぞれ確認できた。波崎海水浴場休憩施設での鳥合わせの結果は 34 種類と多くをカウントした。この時期にしばしば見られる海鳥の出現が期待したより少なかったのかと思います。探鳥会を準備、案内をしていただいた幹事役の方々、探鳥ポイント毎でスコープに取り込んだ鳥の識別説明を丁寧にして頂いた幹事・役員の方々、自家用車の提供と長距離の安全運転を心掛けてくれたオーナーの方々、大変お世話になりありがとうございました。

【幹事報告】

3月6日、3年ぶりに銚子・波崎カモメ探鳥会が実施されました。本探鳥会は近年天候に恵まれず、今年も週間天気予報では一週間

前の時点から雨予報。そのまま日を重ねても雨予報は変わらず、幹事班は直前まで開催の判断に悩まされることになりました。

開催前日の午後、幹事で開催の有無について検討しました。ここ2年、悪天候で開催が流れていること、銚子の天気予報が「弱い雨」であることなどから、多少の雨に打たれることは覚悟の上で開催してもよいのでは、との桑森幹事長の思いもあり、「実施しましょう！」と開催が決まり、参加者に決行のメールが流れました。

本番当日、我孫子駅の上空は雲に覆われながらも、所々青空が顔を覗かせていました。銚子方面に向けて出発。途中、「発酵の里こうざき」で休憩、昼食を調達して探鳥ポイントへ。

最初の探鳥ポイントであるレストラン「いくり」前の防波堤とそれに続く漁船係留護岸沿いの防波堤では全体的に鳥の数は多くなかったもののシロカモメ、カナダカモメ、ヒメウに出会うことができ、その後の千人塚ではシノリガモ、ウミスズメ、ハヤブサ、シロカモメなどを観察することが出来ました。

ウオッセ21で昼休憩、お土産を買った後、午後は第3漁港から波崎へ探鳥ポイントを移しました。第3漁港では間近にシロカモメが見られたほか、ウミスズメの複数の小集団、アカエリカイツブリなどが観察できたほか、波崎ではハジロカイツブリの集団やクロガモ、ミミカイツブリなどを見ることができ、収穫多き探鳥会となりました。

心配された雨は、丁度昼休憩でウオッセ21の建物に入っているときにまとめてザッと降ったきり、奇跡的に探鳥中に雨に打たれることはありませんでした。それどころか、途中何度となく太陽が雲の切れ間から顔を出して日が差すなど、皆さん日頃の行いがよいのか、晴れ男(女)様々の探鳥会となりました。

<認めた鳥> ヒドリガモ、ホシハジロ、スズガモ、シノリガモ、クロガモ、アカエリカイツブリ、カンムリカイツブリ、ミミカイツブリ、ハジロカイツブリ、ヒメウ、ウミウ、アオサギ、オオバン、ユリカモメ、ウミネコ、カモメ、シロカモメ、カナダカモメ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、ニシセグロカモメ、ウミスズメ、トビ、チュウヒ、ノスリ、

チョウゲンボウ、ハヤブサ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ムクドリ、ツグミ、スズメ、ハクセキレイ 計34種

<参加者> 井上正、浅野利幸、古賀嗣朗、小澤淳宏、金子雅幸、大久保陸夫、津村勝吉、間野吉幸、船津登、吉田隆行、中西榮子、上杉宣一、石塚喜久夫、森本宜久、小玉文夫、多葉田五男、常盤孝義（幹事）桑森亮、相良直己、北崎正典 計20名

第17回「野鳥サロン」実施報告

第17回野鳥サロンが、3月26日(土)、水の館3階研修室にて実施されました。

今回のテーマは、

チョウゲンボウの観察記

野口幸子さんによって描かれた野鳥の2本立て。

は、北崎さんが柏市の某商業施設ビルの換気口に営巣するチョウゲンボウを1年に亘って観察したもの。繁華街の真中で繁殖するチョウゲンボウの家族の様子がつぶさに報告され、沢山の写真も添えられた労作に、感嘆の声しきりでした。

は、当会の元会員、野口幸さんが描いた水彩画63点を、同じく当会会員の宮下さんご夫妻がDVDにまとめたものを上映。ベテラン会員の中には野口さんと交流のあった方も多く、その人となり懐かしく思い起こしながら、美しい絵と「二胡」の旋律を堪能しました。

どちらも貴重な資料であり、今回だけにとどまらず今後も活用されたいとの意見も頂き、無事、終了しました。

<参加者> 常盤孝義、間野吉幸、松本勝英、桑森亮、野口隆也、吉田隆行、田中功、畠中暁美、関口小夜子、松田幸保、小澤淳宏、船津登、小林博之、古出洋子、石井俊子、鈴木静治、野倉元雄、相良直己、小林みちこ（担当）北崎正典、小林寿美子、野口紀子 計22名

3月役員会報告

日時 3月13日(日) 13:00~16:00
場所 水の館 3階研修室
議事

1. 平成28年度定期総会について
4月10日(日)開催の平成28年度定期総会資料について、事務局及び会計担当が資料に基づき提案し、検討の結果、一部を修正・追記することで最終案を決定しました。総会資料は次の通りです。
 - ・平成28年度定期総会次第
 - ・平成27年度事業報告(案)
 - ・平成28年度事業計画(案)
 - ・平成27年度決算・貸借対照表及び平成28年度予算(案)
2. ほーほーどり 250号掲載予定記事
会報250号の掲載記事について、資料に基づき検討、執筆担当等を決定しました。
3. 2016年度上期行事計画への追加について
2016年度上期行事計画に「ホタルの夕べ」を8月7日(日)に、「新入会員オリエンテーション」を6月25日(土)に追加実施することを決定しました。
4. 第18回「野鳥サロン」について
担当幹事の一部を変更し、5月に水の館研修室で実施します。具体的日程及び内容については担当幹事が検討中で、詳細が決まり次第周知されます。
5. 報告事項
以下の事項が報告されました。
 - 2月20日開催のバードウォッチング講演会の実施結果
 - 対外対応状況等
 - 事務局報告事項
 - JBF2015 実行委員会(2/24)報告事項とJBF2016に向けての審議事項
6. その他
(1) 会報「ほーほーどり」寄稿の記載ルールの明確化について担当幹事から提案があり、検討の結果、次の通り決定しました。
 - ・遠出探鳥会の幹事報告について、記載内容は実施結果、反省と今後の提言等

にとどめ、個人的感想は感想文作成者に任せる。

・「鳥だより」のチェック体制と投稿・記載ルールの明確化について、関係者等でタスクチームを編成し検討することとし、具体的には次回役員会で事務局が提案する。

- (2) 平成28年度の幹事について、金子幸子、染谷、類地、六角の4名が27年度末で辞任するため、後任に間野が弘實和昭を推薦し、了承された。なお、類地と六角は会計監査については留任する。

以上

バードウォッチング講演会開催報告

2月20日(土)、午後2時から4時、手賀沼親水広場水の館 3階研修室において、当会と我孫子市鳥の博物館友の会との共催により、山階鳥類研究所の平岡考さんを講師に、一般市民も対象とした「バードウォッチング講演会」を開催しました。

講演のタイトルは「バードウォッチング入門～入門済みの人はちょっと復習～」とされ、案内ポスターやチラシでは、『野鳥は色鮮やかで声も美しく、親しみやすい反面、昆虫や植物のように手にとって凶鑑と見比べられないなど、入門のハードルが高い側面もあります。当日はまったくの初心者にもわかりやすく、経験者も興味をもっていたけりようなバードウォッチング紹介ができればと思っています。今回の講演は、2015年6月に我孫子市鳥の博物館で行ったテーマトークの内容を大幅に拡充して再演するものです。』と講師から内容紹介されていました。

平岡さんのお話は、山階鳥類研究所の紹介から始まり、双眼鏡の使い方からバードウォッチングの基本と留意すべきこと、更には野鳥の声や形態識別、生態まで幅広い範囲にわたり、真にバードウォッチングの全てといった内容でした。事前の紹介通りに初心者にはわかりやすく、経験者にも興味がわく内容で、多くの方々が野鳥に親しみ、未経験の方にはバードウォッチングを始める良い契機になったことと思います。

私の個人的な感想では、野鳥観察時に特徴

をスケッチしたり具体的形態を口にして確認すると聞きし、こうした丁寧な観察により識別ポイントが頭に刷り込まれ、力量が高まるのだらうと思い、普段の観察姿勢を反省することしきりでした。また、例えば「留鳥」といった野鳥に関する言葉の定義でも自分の理解が曖昧だったことを知り、正しく理解することの大切さを再認識させられました。

当日は小雨が降り寒い中で来場者の集まり具合が心配されましたが、定員 150 名のところ参加者数は 136 名と会場はほぼ満席状態で、平岡さんの熱の籠ったお話と多くの聴衆で大盛況でした。講演時間も予定時間一杯となり、熱心な質疑応答もあって終了が 15 分ほど超過してしまうほどでした。

参加者の状況は、当会の会員および鳥博友の会会員を含めた主催者の会員数は 53 名で、非会員が 83 名 (61%) を占め、一般市民の皆さまの関心が高いことに驚かされました。

また、参加者の居住地内訳では、我孫子市 72 名 (52.9%)、柏市 24 名 (17.7%)、松戸・流山・野田市 20 名 (14.7%)、印西市 3 名 (2.2%)、その他県内 4 名 (2.9%)、県外 5 名 (3.7%)、不明 8 名 (5.9%) と、東葛地域の方々が約 85% を占めました。我孫子市中心の告知でしたが、広範囲の地域から来場され、一般参加者の熱意を感じる講演会となりました。

このような貴重な機会を提供して頂いた平岡さんに感謝申し上げ、今回の講演会によりバードウォッチングの仲間の輪が広がり、人と鳥が共存できる環境づくりにつながることを期待し、報告とします。

(報告者：桑森亮)

寄稿

手賀沼ビオトープの四季、10 年間の野鳥観察 鳥と風景、草木、虫、小動物

鈴木静治

手賀沼ビオトープの四季：昨年 2015 年の調査を中心に春夏秋冬の順に風景、草木、鳥、虫、小動物等について、次に最近の 10 年間の野鳥の特記事項、月一回の定期的定点観察の楽しみ、手賀沼ビオトープの変遷について記載していきますので、草木、虫に興味ない方はそれらの名称は飛ばしてお読みください。

手賀沼ビオトープの四季

春(3~5月)：3月初めは周りの田畑、斜面林の景色は冬の様相ですが、野草の茎は未だ出ず葉は地面にバラのように広がるロゼット状で、木は芽を膨らませ、生長の準備をしています。3月中下旬~4月になると春全開になります。野草は3月にホトケノザ、ヒメオドリコソウ、オオイヌノフグリ、タンポポ、ツクシ、タネツケバナ等が、4月にカラスノエンドウ、アリアケスミレ、ムラサキサギゴケ、オランダミミナグサ、ハコベ、ハナニラ等、5月にアカツメクサ、ヒメジョオン、ヤセウツボ、ニワゼキショウ、キショウブ等の花が咲き、木は3月に柳、メタセコイア、ラクウショウの花芽がつき、4月に柳、桜、レンギョウ、ハナカイドウ、ヒュウガミズキ等、5月にツツジ、コデマリ、コゴメウツギ、タニウツギ、ニシキギ、シャリンバイの花が咲きます。3月には越冬したキタテハが、4月にはモンシロチョウ、モンキチョウ、ベニシジミ、さらに幼虫がタネツケバナ、ショカツサイを食草とし、春を告げるツマキチョウが優雅に飛び出します。ウシガエルが鳴きだし、イタチも姿を見せることがあります。5月にはアオスジアゲハ、サトキマダラヒカゲが木の間を飛びます。またバツタのヒメギス、ナナホシテントウ、ゾウムシ、ハムシ等も見られます。田でトウキョウダルマガエルが鳴き、草原でアマガエル、カナヘビも見えます。その中で冬鳥のアオジ、オオジュリン、ツグミ、タヒバリ、ユリカモメが4月頃まで見られ、飛来した夏鳥のツバメが飛び始め、オオヨシキリの囀りが聞こえるようになると夏が直ぐ近くまで来た感じがします。3~5

月の野鳥は 10 年間の平均で 22 種/月観察しています。

夏(6~8月) : 6月には周りの水田に稲が青々と育ち、斜面林も緑一色となり、野草はヒメジョオン、カタバミ、マンネングサの花、チガヤの白い穂、ギシギシ、スイバ、カヤツリグサの穂に花が咲き、7月にはピンク色のネジバナ、ノカンゾウ、ミヤコグサ、ヤブガラシ、ヒルガオ、ヒメガマ等の花が咲きます。8月にはメマツヨイグサが咲き、ヨシ、ヒメガマ、セイバンモロコシの花穂が目立つようになります。木では6月はアジサイ、ノリウツギ、シモツケ、栗、サツキの花が、7月にはリョウブ、ネム、白く大きな遊園地のコーヒーカップのようなタイサンボクの花が、8月にはかすかに芳香のあるアペリア(ハナゾノツクバネウツギ)、クズ、ヌマトラノオ、キクイモが咲き、栗、楠、ラクウショウの実がなります。これらの花の蜜を吸うアゲハ、アカボシゴマダラ、キタキチョウ、ウラギンシジミ、イチモンジセセリ、ススキ、チガヤ、ヨシを幼虫の食草とし各種の花の間を弱々しく飛び、なかなか止まらないギンイチモンジセセリ、幼虫が柳の葉を食草としは瑠璃色の幻光を翅表から放ち美しい輝きをあらかずコムラサキが飛び、コシアキトンボ、シオカラトンボ、ナツアカネ、ギンヤンマ、ウチワヤンマが飛びます。オンブバッタ、ショウリョウバッタ、ツチイナゴ、マメコガネ、ゾウムシ、蜂、クモ等も見られます。8月にはアブラゼミ、ニイニゼミ、ミンミンゼミ、ツクツクボウシが鳴きます。その中で留鳥とオオヨシキリ、ツバメ、チュウサギ等の夏鳥しか見えなくなり野鳥観察は少し寂しくなります。6~8月の野鳥は 10 年間の平均で 14 種/月観察しています。

秋(9~11月) : 9月には水田は稲の刈り取りが始まり、斜面林は濃い緑となります。野草は9月にニラ、アレチヌスビトハギ、サオトメカズラ、ヒレタゴボウ、タカサブロウの花が咲き、イノコズチ、キンエノコロ、メヒシバ、ヨモギ等の種子がなり、10月にはセイタカアワダチソウ、アキノノゲシ、キツネノマゴ、青色と白色のツククサの花が咲き、ススキ、チカラシバの花穂がでて、11月にサオトメカズラの実がなります。木では9月シモツケの花、栗、楠、カラタチ、ユズリハ、ニシキギの実がなります。11月にはハゼの実がなります。蝶はキアゲハ、クロアゲハ、ツマグロヒョウモン、ヒメアカタテハ、ヤマトシジミ、キタテハ、チャバネセセリ等が飛び、トンボはノシメトンボ、アジイトトンボ、夏、山で過ごし秋、田に帰ってくる渡りをするトンボ、アキアカネが見られます。蝉はアブラゼミ、ツクツクボウシが9月末まで鳴き、草の中ではツコムシ、トノサマバッタ、イナゴ、コバネイナゴ、コオロギ、カメムシ、ミノムシ、クモ等が見られます。鳥は夏とあまり変わりませんが、モズ、ユリカモメ、ヒヨドリの渡り、渡り前のチュウサギが見られるようになります。9~11月の野鳥は 10 年間の平均で 16 種/月観察しています。

冬(12~2月) : 12月には二番穂と田起こし田が混在し、斜面林は黄色と赤色の紅葉と緑が綺麗です。草木の花は少なくなり、タンポポ、ハコベの花が所々に咲く程度で、木ではサザンカの花が咲き始めます。野草ではヨシ、ヒメガマ、セイタカアワダチソウの種、木ではラクウショウ、ヤツデ、キツタ等の実がなります。虫は12月のトンボ、イナゴの姿を最後に、1月以降は見られません。この頃堤防にモグラの盛り土がよく見られるようになります。鳥は12月にはコガモが多くなり、ツグミも現れ、1月にはアオジ、タヒバリ、2月にはオオジュリンが多くなり、アリスイ、カシラダカ、シメ等冬鳥が見られるようになります。12~2月の野鳥は 10 年間の平均 21 種/月観察しています。以上は 2015 年 1 月~12 月の手賀沼ビオトープの四季でしたが、10 年間の鳥の観察で気づいた点を次に記載してみます。

野鳥の最近の 10 年間の特記事項

ビオトープ内とその周辺の田、岸近くの沼で、2006/4~2016/3 の最近 10 年間で 86 種 13,588 羽の野鳥を観察していますが、見られた鳥のベスト 10 はスズメ 3,531 羽、カルガモ、コガモ(冬鳥)、ヒヨドリ、カワウ、ハシボソガラス、カワラヒワ、ツバメ(夏鳥)、ホオジロ(千葉県鳥)、オオジュリン(冬鳥)369 羽の順で、ベスト 11~20 はムクドリ 343 羽、ツグミ(冬鳥)、アオジ(冬鳥)、ユリカモメ(冬鳥)、モズ、シジュウカラ、カイツブリ、アオサギ、オオバン(我孫子市の鳥)、コサギ 133 羽の順となっています。半年間日本で過ごす冬鳥、夏鳥がベスト

20 中に 6 種も入るのはいかに多くの渡り鳥がピオトープ周辺に来るかが判ります。また 10 年間前半に見られたのに、後半に見られないのはアジサシ、コアジサシ、ゴイサギが、逆に前半に見られなかったのに、後半に見られるようになったのはアリスイ、カシラダカ、ヨシゴイ、シメがあります。アジサシ、コアジサシは手賀沼周辺で減少して見られなくなっているようです。ゴイサギは池の周りの柳の木が剪定され罅がなくなり見られなくなったと思われます。10 年間 1 年のみ見られたのは留鳥ではアヒル、エナガ、オオタカ、コジュケイ、セキセイインコ(籠抜け)、冬鳥ではアトリ、イソシギ、オオハクチョウ、キンクロハジロ、タシギ、ベニマシコ、ホオアカ、ミミカイツブリ、ホシハジロ、夏鳥ではクロハラアジサシ、コチドリ、渡り途中の鳥ではオシドリ、コチョウゲンボウ、コムクドリ、ショウドウツバメ、ツツドリでした。この中で私の印象に残るのはオシドリで 2006/10 月にピオトープ生息ゾーンの池に綺麗な 1 羽が泳いでいました。私がピオトープ観察し始めの頃のためビックリしましたが、越冬地に向かう途中一休みしたのでしょうか。また 2008/3 月赤い のベニマシコがピオトープの生息ゾーンの柳の細枝に止まっていたことがあります。ベニマシコは冬に草の種子を食料として葎原の茂みに生息していますが、1~3 月にはその種子の乏しくなり、美味しい柳の芽、花穂を食べに来たものと思われます。1999~2005 年にはハシビロガモ、シベリアジュリン、イカルの記録が有ります。次に 10 年間に 2~3 年見られたのは留鳥ではアイガモ、チョウゲンボウ、冬鳥ではアジサシ、アリスイ、カシラダカ、シメ、チュウヒ、ハジロカイツブリ、夏鳥ではホトトギス、ヨシゴイ、渡り途中の鳥ではカケスが有ります。カケスは上空をヒラヒラ飛びますので直ぐに判ります。 <つづく>

*お断り 定期的定点観察の楽しみ
手賀沼ピオトープの変遷 は紙面の都合により次号掲載いたします。(編集者)

鳥 だ よ り

手賀沼にオオハクチョウ・コハクチョウが飛来しました。昨年の 1 月に引き続いての観察情報でした。2010 年以降の鳥だより記録では、2010 年 11 月、2012 年 3 月、2013 年 2 月、2015 年 1 月、そして今冬の 1 月と 5 回目の飛来です。一番早かったのは、2010 年の 11 月 19 日でした。コハクチョウは、2011 年 2 月、2012 年 1 月、同 11 月、2013 年 11 月、2014 年 12 月とほぼ毎冬確認されています。

野鳥のなかでも最小種の一つのミソサザイ(2/21)が鳥だより初登場(2010 年以降)です。またイカルも同様に初登場です。コイカルは手賀沼の遊歩道でよく見られていますがイカルの記録は 2010 年以降では初めてでした。ところでイカルとコイカルの見分け方ご存じですか? 調べて見ませんか!

- | | |
|--|---|
| <p>1.21 [手賀沼 岩井新田沖] オハクチョウ(4) ハス群落の中に幼鳥を交えたオオハクチョウ 4 羽とコハクチョウ 2 羽がいました。コブハクチョウとの小競り合いではオオハクチョウが勝ちましたが、コハクチョウは圧力に負けて上沼の方に飛んで行きました。 松田幸保</p> <p>1.21 [手賀沼 岩井新田沖] コハクチョウ(2) 同上 松田幸保</p> | <p>1.21 [手賀沼高野山新田沖] オハクチョウ(4) 飛来、着水。4 羽の群れ。幼鳥と思われる灰色の個体が 2 羽含まれていました。 野倉元雄他同好者</p> <p>1.21 [遊歩道桜広場沖] オハクチョウ(4) 遊泳 野倉元雄</p> <p>1.22 [片山(手賀の丘公園)] ノリ(1) 上空を飛ぶ 船津登</p> <p>1.22 [片山(手賀の丘公園)] ノリ(1) 林の</p> |
|--|---|

- 中の木に止まる 船津登
- 1.22 [片山(手賀の丘公園)] ヤマガラ(2) 船津登
- 1.22 [片山(手賀の丘公園)] トラツグミ(1) 飛んできて木に止まる 船津登
- 1.22 [片山(手賀の丘公園)] アトリ(3) 小さな木に止まる 船津登
- 1.22 [下沼 蓮群生域] ノリ(2) 上空を飛翔 吉田隆行
- 1.22 [下沼(岩井新田蓮群生域)] オハケヨウ(4) A2J2 採餌 吉田隆行
- 1.23 [遊歩道桜広場近] オハケヨウ(4) 岸辺で休息、採餌 野倉元雄
- 1.24 [酒井根 6 丁目下田の森] アマガラ(1) 10:02、林縁を鳴きながら移動 飯泉仁
- 1.25 [上沼田] ヒ(2) 飛翔 桑森亮
- 1.25 [箕輪新田] ヲニシコ(1) 鳴きながら採餌 吉田隆行
- 1.25 [遊歩道桜広場近] オハケヨウ(4) 岸辺で休息 野倉元雄
- 1.26 [下沼 蓮群生域] フユウ(1) 低空を飛翔 吉田隆行
- 1.27 [片山新田] ヲニシコ(1) 手賀沼側、柳の木に止まる 船津登
- 1.27 [片山新田] ヲニシコ(1) 手賀沼側、葦に止まる 船津登
- 1.28 [岡発戸谷津] アリスイ(1) 低木、枯草叢の中を動く 桑森亮
- 1.28 [五本松公園] ヤマガラ(2) 低木、地上を移動 桑森亮
- 1.28 [都部] ヤマガラ(1) 斜面林の林床で採食 桑森亮
- 1.28 [東我孫子] トラツグミ(1) 林底から飛び立ち 桑森亮
- 1.28 [布施(あけぼの山)] アトリ(1) 木に止まる 船津登
- 1.28 [布施(あけぼの山)] イカ(3) カエデの実を食べる 船津登
- 1.28 [あけぼの山公園] イカ 5+紅葉や桜の木で採餌 吉田隆行
- 1.28 [あけぼの山公園] アトリ(2) 木に止まって飛び去る 吉田隆行
- 1.29 [東我孫子] トラツグミ(1) 民家の庭の草地で採食 桑森亮
- 1.31 [江蔵地] ヲニシコ(2) 芽の大きくなりだした柳の枝にとまる 鈴木静治
- 1.31 [中沼田] フユウ(1) 採餌飛翔。カラスにモビングされ、飛去。 中根忠
- 2.01 [遊歩道桜広場岸] オハケヨウ(4) 岸付近を遊泳 野倉元雄
- 2.02 [片山(手賀の丘公園)] キウタギ(2) エナガの群の近く、杉の木で動く 船津登
- 2.02 [片山(手賀の丘公園)] ヤマガラ(1) 船津登
- 2.02 [片山(手賀の丘公園)] アトリ(3) 地上で採食 船津登
- 2.02 [片山新田] ノリ(1) 電柱に止まる 船津登
- 2.03 [古新田] ノリ(1) 森でハシロガラス 2羽にモビングされる 鈴木静治
- 2.03 [宗甫] ヲニシコ(2) 池岸の桜の小枝に止まる 鈴木静治
- 2.04 [岡発戸新田] ヒ(1) 上空を飛ぶ 鈴木静治・船津登・間野吉幸・金子雅幸
- 2.07 [酒井根 6 丁目下田の森] オハケ(1) 10:07、カラスに追尾され上空を旋回 飯泉仁
- 2.07 [酒井根 6 丁目下田の森] オハケ(1) 10:38、上空を旋回 飯泉仁
- 2.08 [布佐平和台] ハブサ(2) 鉄塔上空を飛び鳴く 鈴木静治
- 2.08 [片山(手賀の丘公園)] ヒ(1) 上空を飛ぶ 船津登
- 2.08 [片山(手賀の丘公園)] ノリ(2) 2羽が上空を輪を描き飛ぶ 船津登
- 2.08 [片山(手賀の丘公園)] キウタギ(1) 松の木の中で動く 船津登
- 2.08 [片山(手賀の丘公園)] ヤマガラ(3) 船津登
- 2.08 [片山(手賀の丘公園)] アトリ(1) 木に止まる 船津登
- 2.08 [片山(手賀の丘公園)] ウリ(2) 桜の芽をついばむ 船津登
- 2.08 [ヒドリ橋] ハブサ(1) 鉄塔 96 に止まっていた。 吉田隆行
- 2.11 [手賀沼] オハケヨウ(4) 下沼 4 桑森亮・船津登・金子雅幸・田中功
- 2.11 [手賀沼] ミサゴ(1) 上沼 1 桑森亮・船津登・金子雅幸・田中功
- 2.11 [手賀沼辺] ヒ(2) 下沼 2 桑森亮・船津登・金子雅幸・田中功
- 2.11 [手賀沼辺] ノリ(1) 下沼 1 桑森亮・船津登・金子雅幸・田中功
- 2.11 [手賀沼辺] ハブサ(2) 上沼 2 桑森亮・船津登・金子雅幸・田中功
- 2.11 [江蔵地] ノリ(1) 葎原上を飛ぶ 鈴木静治

- 2.12 [手賀新田] ハ`ニマシ(1) 葎原を鳴きながら飛び、柳の木に止まる 鈴木静治
- 2.12 [千間橋] フ`ル(1) 田の上を飛ぶ低空で飛翔 鈴木静治
- 2.12 [発作] フ`ル(1) 葎原上を低空で飛翔 鈴木静治
- 2.12 [発作] ノリ(1) 上空を飛ぶ 鈴木静治
- 2.12 [発作] ハ`ニマシ(8) セイカアワ`ヲ`ヲの種を啄む、柳の枝に止まる 鈴木静治
- 2.12 [ヒドリ橋] 材カ(1) 葎の中段に止まっていた 吉田隆行
- 2.13 [大井新田先手賀沼] アリイ(1) 15:48、葎原の中を鳴きながら移動
飯泉仁・飯泉久美子
- 2.13 [布施あけぼの山公園] アトリ(14) 11:20、モシ`の種子をついばんでいた
飯泉仁・飯泉久美子
- 2.13 [布施あけぼの山公園] アトリ(1) 12:00、林の中を移動 飯泉仁・飯泉久美子
- 2.13 [片山新田先手賀沼] 材カ(1) 14:43、遊歩道脇の草地に飛来
飯泉仁・飯泉久美子
- 2.15 [北新田] ヲシ` (1) 4号水路で
畠中暁美・松田幸保他
- 2.15 [北新田] ノリ(1) 畑地から飛び立ち
畠中暁美・松田幸保他
- 2.15 [北新田] ヒ` (4) 飛翔
畠中暁美・松田幸保他
- 2.15 [北新田] フ`ウ`ソ` (3) 飛翔
畠中暁美・松田幸保他
- 2.16 [片山(手賀の丘公園)] 材カ(1) キョ`キョ`の鳴き声の後、枯木に止まる
船津登
- 2.16 [片山(手賀の丘公園)] ノリ(1) 上空を飛ぶ 船津登
- 2.16 [片山(手賀の丘公園)] キイタ`キ(3) エナガの群の近く、杉の木で動く 船津登
- 2.16 [片山(手賀の丘公園)] ヤマガ` (2) 船津登
- 2.17 [手賀沼遊歩道(岡発戸新田地先)] フ`ル(1) 葎原から飛び立ち 桑森亮
- 2.17 [都部] アリイ(1) 荒湿地の低木に 桑森亮
- 2.21 [酒井根 6 丁目下田の森] ミツガ`イ(1) 9:30、池の脇の葎にとまり鳴いていた 飯泉仁
- 2.22 [片山(手賀の丘公園)] 材カ(1) 林の
中で鳴き、その後飛びだす 船津登
- 2.22 [片山(手賀の丘公園)] キイタ`キ(2) 杉の木の中で動く 船津登
- 2.22 [片山(手賀の丘公園)] ヤマガ` (5) 船津登
- 2.22 [高野山新田地先] 材カフ`ウ(4) 遊泳 野倉元雄
- 2.23 [大井新田] アリイ(1) 葎の中から飛び木に止まる 船津登
- 2.24 [岡発戸谷津] ハ`ニマシ(2) セイカアワ`ヲ`ヲの実を啄む 桑森亮
- 2.24 [手賀沼遊歩道(岡発戸新田地先)] トビ` (2) 飛翔 桑森亮
- 2.24 [曙橋] ノリ(1) 散水栓上で休み低く飛ぶ 桑森亮
- 2.24 [上沼田] フ`ウ`ソ` (1) カスのヒ`ソ`を受け、田圃の杭上に止まる 桑森亮
- 2.24 [布施(あけぼの山)] アトリ約 25 地上で採食 船津登
- 2.26 [下沼田] 材カ(2) 小川の岸の葎に止まる 鈴木静治
- 2.26 [片山(手賀の丘公園)] フ`ウ(1) 林の中の木に止まる 船津登
- 2.27 [我孫子市緑] ヲシ` (1) 椿の木で初音、視認 野倉元雄
- 2.28 [古戸] フ`ウ`ソ` (1) 堤防でヰ`リ`グ`して餌探し 鈴木静治
- 2.28 [江蔵地] ノリ(1) 河原上空を滑空 鈴木静治
- 2.28 [江蔵地] ヲシ` (2) 葎原で囀る 鈴木静治
- 2.29 [手賀沼遊歩道(高野山新田地先)] 材カフ`ウ(4) 成鳥 2 羽、若鳥 2 羽が水面で休む 桑森亮・間野吉幸
- 2.29 [片山(手賀の丘公園)] 材カ(1) 枯木に止まり鳴く 船津登
- 2.29 [片山(手賀の丘公園)] ヤマガ` (1) 木に止まり鳴く 船津登
- 2.29 [片山(手賀の丘公園)] キイタ`キ(2) 杉の木の中で動く 船津登
- 2.29 [片山(手賀の丘公園)] ヤマガ` (3) 船津登
- 2.29 [片山(手賀の丘公園)] ヲシ` (2) 桜の芽をついばむ 船津登
- 2.29 [片山新田] ノリ(1) 電線に止まる 船津登
- 3.01 [岡発戸谷津] ヲシ` (1) フ`ツ`ユ`の中で

- 囀り 桑森亮
 3.02 [岡発戸谷津] ヒ` (3) 鳴きながら旋
 回飛翔 桑森亮
 3.02 [岡発戸谷津] フョウ`ホ`ウ(1) 疎林か
 ら市街地上空へ飛び出す 桑森亮
 3.02 [高野山新田] アリスイ(1) 桜の枝で静止
 野倉元雄
 3.03 [上沼田] ヒ` (1) 上空を巡回する
 鈴木静治
 3.03 [中沼田] 材カ(2) 枯れた葦の穂先に
 止まる 鈴木静治
 3.03 [岡発戸新田] ヒ` (4) 田上を群れ、旋
 回する
 鈴木静治・船津登・間野吉幸・金子雅幸
 3.05 [手賀沼] 材カフョウ(5) 下沼 5
 桑森亮・船津登・金子雅幸・田中功
 3.05 [手賀沼] ミカ` (1) 上沼 1
 桑森亮・船津登・金子雅幸・田中功
 3.05 [手賀沼辺] ヒ` (1) 下沼 1
 桑森亮・船津登・金子雅幸・田中功
 3.05 [手賀沼辺] フョウ`ホ`ウ(1) 下沼 1
 桑森亮・船津登・金子雅幸・田中功
 3.05 [手賀沼辺] ハブ`サ(1) 上沼 1
 桑森亮・船津登・金子雅幸・田中功
 3.05 [戸張新田] ハブ`サ(1) 鉄塔 96 に止ま
 っていた 吉田隆行
 3.06 [大井新田先手賀沼] ミカ` (1) 15:26、
 上空を飛翔 飯泉仁・飯泉久美子
 3.06 [片山] ヤマガ`ラ(1) 13:37、囀り
 飯泉仁・飯泉久美子
 3.06 [片山新田先手賀沼] ノリ(1) 12:45、
 電線に止まっていた 飯泉仁・飯泉久美子
 3.06 [片山新田先手賀沼] ヒ` (1) 12:58、
 上空を巡回 飯泉仁・飯泉久美子
 3.06 [箕輪新田先手賀沼] 材カフョウ(5)
 14:31、我孫子市側の水面を移動
 飯泉仁・飯泉久美子
 3.06 [鷺野谷] ヤマガ`ラ(1) 12:25、囀り
 飯泉仁・飯泉久美子
 3.06 [高野山新田地先] 材カフョウ(4) 遊泳
 野倉元雄
 3.06 [光ヶ丘 廣池学園] ウ`イ(1) 9:52、
 囀り 飯泉仁
 3.08 [片山(手賀の丘公園)] 材カ(1) 枯木
 に止まる 船津登
 3.08 [片山(手賀の丘公園)] ヤマガ`ラ(1)
 船津登
 3.10 [手賀沼遊歩道(岡発戸新田地先)] ミ
 コ` (1) 魚をすくい取り杭上へ 桑森亮
 3.10 [片山新田(手賀沼側)] フユ(1) 葦原
 の上を飛び、葦原の中に下りる 船津登
 3.11 [江蔵地] ヒ` (1) 上空でハホ`ソガ`ラに
 ヒ`ソ`される 鈴木静治
 3.11 [江蔵地] ハ`ニマシコ(2) 柳の花芽を啄む
 鈴木静治
 3.15 [北新田] ノリ(1) 飛翔
 畠中暁美他 10 名
 3.15 [北新田] ヒ` (5) 飛翔、
 畠中暁美他 10 名
 3.15 [北新田] フョウ`ホ`ウ(1) 飛翔
 畠中暁美他 10 名
 3.15 [片山(手賀の丘公園)] 材カ(1) 枯木
 に止まり鳴く 船津登
 3.15 [片山(手賀の丘公園)] キイダ`キ(1) 松
 の木の中で動く 船津登
 3.15 [片山(手賀の丘公園)] ヤマガ`ラ(4)
 船津登
 3.15 [片山(手賀の丘公園)] ノリ(4) 地上で
 採食 船津登
 3.15 [片山(手賀の丘公園)] ウ`イ(2) 桜の芽
 をついばむ 船津登
 3.15 [片山(手賀の丘公園)] ウ`イ(1) さえ
 ずる 船津登
 3.16 [酒井根 6 丁目下田の森] アカ`ラ(1)
 9:33、鳴きながら移動 飯泉仁
 3.17 [江蔵地] ハ`ニマシコ(1) 葎原の柳の林で
 鳴く 鈴木静治
 3.17 [江蔵地] フョウ`ホ`ウ(1) 河原、川の上
 を飛ぶ 鈴木静治
 3.20 [柏市：非公開] ツミ(1) 9:41、雌が枝に
 とまり鳴いていた 飯泉仁・飯泉久美子
 3.20 [柏市：非公開] ツミ(2) 9:42、成鳥雌
 雄各 1 羽が交尾 飯泉仁・飯泉久美子
 3.20 [柏市：非公開] ツミ(2) 9:43、雌雄各 1
 羽、雄が巣に巣材を運搬 飯泉仁・飯泉久美子
 今回寄せられた鳥の全種名
 アオサギ、アオジ、アカゲラ、アカハラ、ア
 トリ、アリスイ、イカル、イソシギ、ウグイ
 ス、ウソ、エナガ、オオジュリン、オオタカ、
 オオハクチョウ、オオバン、オカヨシガモ、
 オナガ、オナガガモ、カイツブリ、カケス、
 カシラダカ、カモメ、カルガモ、カウウ、カ

ワセミ、カワラヒワ、カンムリカイツブリ、キクイタダキ、キジ、キジバト、キンクロハジロ、クイナ、クサシギ、ゴイサギ、コガモ、コゲラ、コサギ、コハクチョウ、コブハクチョウ、シジュウカラ、シメ、ジョウビタキ、シロハラ、スズガモ、スズメ、セグロカモメ、セグロセキレイ、セッカ、ダイサギ、タゲリ、タシギ、タヒバリ、チュウヒ、チョウゲンボウ、ツグミ、ツミ、トビ、トラツグミ、ノスリ、ハクセキレイ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、ハジロカイツブリ、ハヤブサ、バン、ヒドリガモ、ヒバリ、ヒヨドリ、ビンズイ、フクロウ、ベニマシコ、ホオアカ、ホオジロ、ホシハジロ、マガモ、ミコアイサ、ミサゴ、ミソサザイ、ミヤマガラス、ムクドリ、メジロ、モズ、ヤマガラ、ユリカモメ、ヨシガモ、ルリビタキ 計 86 種
 <番外種>
 アヒル、カワラバト、コジュケイ、バリケン

今回の投稿者の総投稿件数	
飯泉仁	198
飯泉仁・飯泉久美子	138
桑森亮	121
桑森亮・間野吉幸	2
桑森亮・船津登・金子雅幸・田中功	88
鈴木静治	219
鈴木静治・船津登・間野吉幸・金子雅幸	56
田中功	8
中根忠	2
野倉元雄	56
野倉元雄（居合わせた同好の士）	1
畠中暁美・松田幸保他	28
畠中暁美・同行計 10 名	23
船津登	171
松田幸保	3
吉田隆行	63
総計	1177

(浅井久)

【会員だより】(ab-yacho より)

【北千住のハクガン】

中西榮子 2016.03.08

昨年 11 月 5 日、北千住にハクガン幼鳥 3 羽飛来のニュースをお知らせいたしましたが、そのハクガンのうち 2 羽が、かなり白くなり、嘴もピンク色になっています。

【2月～3月に気づいたこと】

桑森亮 2016.03.20

- ・3/1 にウグイスの初鳴きを岡発戸谷津で聞きました。手賀沼遊歩道では 2 月下旬から聞こえたようです。
- ・今シーズンはマガモ、ヒドリガモ、ホシハジロが安定して手賀沼にいましたが、3 月に入りカモの数がめっきり減りました。
- ・3 月に入り、セグロカモメの数が増えています。渡りの途中なのでしょう。
- ・手賀沼遊歩道でクイナをよく見かけるようになりました。
- ・アオサギの綺麗な婚姻色が 2 月下旬から見られるようになりました。他の鳥類でも繁殖初期の行動が散見されます。

会からのお知らせ

< 新入会員オリエンテーション開催のご案内 >

今年度も“新入会員オリエンテーション”を下記の様に開催いたします。
当会の歴史・活動の詳細、探鳥の楽しみ方など、当会の全てを丸ごと知って頂ける良い機会です、昨年度より入会されました新入会員の皆様を対象ですが、長年の会員の方の参加も歓迎します。参加希望者は下記申し込み先へ期限までに申し込みください。

記

日 時 6月25日(日) 10:00~12:00

会 場 水の館 3階 研修室

内 容

プレリユード(開会15分前より) 野鳥動画/スライド・ショー放映

1: 歓迎の挨拶

当会運営体制(組織、役員、事務局)紹介

2: 当会の紹介

当会の他では得られない特徴/楽しみ

当会の名人たち

当会の年間活動

これまでの探鳥地と出会った鳥たち

こんな時のコンタクト先

3: 先達に聴く 探鳥の楽しみとヒント (検討中)

探鳥を楽しむための心構えと準備 (探鳥会参加の準備、ルール、マナーなど)

鳥を素早く見つけるヒント (鳥の見つけ方、見分け方のヒント)

探鳥の楽しみ方 (探鳥、探鳥会参加の楽しみ方)

4: 今後の活動予定と参加の案内

5: 質疑応答&懇談

申込先 オリエンテーション担当幹事 野口紀子

電 話 : 04-7182-7232 (お電話での連絡は14:00以降にお願いします。)

メール : ab-yacho-office@abikoyacho.sakura.ne.jp

期 限 6月10日(金)

その他 参加者には、当会の活動をあまねく紹介する当会特製DVDを進呈いたします。

担 当 相良、金子(雅)、野口(紀)

< 2015年度当会活動の記録DVD >

我孫子野鳥を守る会2015年度DVDの購入希望を受け付けております。(会員限定)

今年の活動の記録DVDも日帰り探鳥会、宿泊探鳥会を始め、会員の皆様から応募を頂いた素晴らしい写真が数多く掲載されているほか、台湾探鳥会の記録も収録しているなど、昨年のものに勝るとも劣らない、素晴らしい内容になっております。

お値段は昨年同様、1枚300円となります。購入を希望される方は下記北崎宛て、申込みをお願いします。

写真集への写真応募者、映写会発表者の方には無償で配付致します。

申込先 北崎正典

電 話 080-5186-2665

E-mail zakki-m-odie@ezweb.ne.jp

* 平日は仕事をしており、電話に出られない可能性がありますので、申込みは極力メールでお願いします。

< 新入会員紹介 >

土器屋一枝、正春 (我孫子市在住)

内藤正久、千鶴子 (横須賀市在住)

小池 勉 (柏市在住)

横尾佳代子 (柏市在住)

佐藤さえ子 (我孫子市在住)

< ご寄付 >

弘實和昭さん、山野辺伸作さん、天野正臣さん、染谷迪夫さん、久永佳弘さんよりご寄付を頂きました。厚くお礼申し上げます。

< 平成 28 年度定期総会 >

当会の平成 28 年度定期総会が、4 月 10 日(日)、水の館 3 階研修室で開催され、27 年度事業報告、決算報告、新年度事業計画および予算について審議の結果、承認されました。(要旨は次号掲載予定)

総会終了後、今年 1 月 11 日～16 日に当会の公式行事として初めて行われた台湾探鳥会の記録写真のスライドショーが上映されました。

ほーほーどり No. 250 (2016 年 5～6 月号)

発 行 2016 年 5 月 1 日

発行人 間野吉幸

編集人 猪爪敏夫、古出洋子、小玉文夫、佐々木隆、野口紀子、松本勝英、宮下三禮

事務局 〒270 1143 我孫子市天王台 2 - 15 - 17 桑森亮 Tel : 04-7182-3149

U R L <http://abikoyacho.org/>

郵便振替 00140 - 2 - 647587 我孫子野鳥を守る会

会 費 年会費 2,000 円 (大学生・高校生 1,000 円、中学生以下 500 円、家族会員 無料)